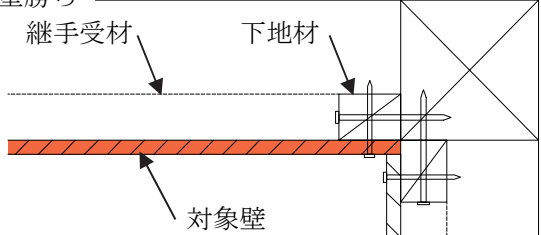
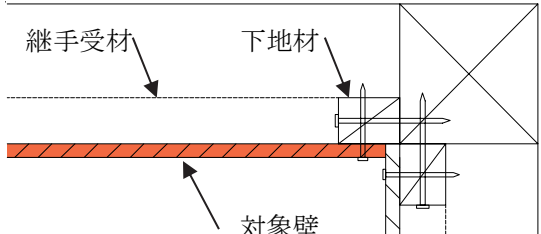


評価シート

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2027年3月31日	評価番号	A-111カ・マ・タ		
評価技術名称					連絡先	http://www.				
構造用合板補強工法 大壁					〒					
入隅等「勝ち・負け・単独」裏栈あり					電話	Fax				
概要	技術概要				建築基準法で壁倍率が指定されている大壁の構造用合板補強で、入隅部等を補強する工法。 カ: 入隅部を対象壁勝ちとする仕様 マ: 入隅部を対象壁負けとする仕様 タ: 片側を受材仕様で単独壁とする仕様					
	技術の特徴				コスト					
	・ 一般流通品なので取り扱いが容易。 ・ ・				サンプル構面		カ: 38,003 円/kN			
							マ: 35,317 円/kN			
							タ: 35,317 円/kN			
公的機関による技術評価・性能証明					実験実施機関					
機関名					その他					
評価番号										
評価取得日										
仕様	適用範囲				写真・図					
	構法		木造在来軸組工法			対象壁勝ち				
	規模		3階建て以下							
	基礎、地盤		特になし			対象壁負け				
	適用部位		内外壁							
	その他		特になし			単独壁				
	主要構成部材の仕様				構造用合板 厚9mm以上 大壁 間柱、継手受材あり					
	耐震性能				評価仕様: 大壁仕様					
			壁基準耐力		壁基準剛性					
	「対象壁勝ち」		5.2 kN/m		730kN/rad/m					
「対象壁負け」		4.16 kN/m		584kN/rad/m						
「単独壁」		4.16 kN/m		584kN/rad/m						
A-111からの低減係数α				対象壁勝ち α=1.0 : 壁基準耐力 5.2×1.0=5.2 対象壁負け α=0.8 : 壁基準耐力 5.2×0.8=4.16 単独壁 α=0.8 : 壁基準耐力 5.2×0.8=4.16						
設計方法				①柱接合部による低減 取付部分が健全であること ②劣化による低減 取付部分が健全であること						
施工者指定				構造用合板 厚9mm以上 下地材に対して、 釘 N50、CN50@150mm以下						
特になし				下地材 奥行30×見付40mm 柱に対して、 釘 N75@150mm以下 または N90 @200mm以下 継手受材 奥行30×見付90mm 柱、下地材に対して 釘 2-N75斜め打ち						
その他				継手受材は 正面から 見て90mm						